

# 料理づくりやる気の芽を大切に

## いま子どもたちは

No.1553

この小さな学び舎で

5

カチャカチャと、食器の音がする。  
昨年12月中旬、私立特別支援学校、愛育養護学校(東京都港区)の校舎2階。食堂をのぞく

と、1年のしんたろうくん(7)が、そうめんを食べていた。同級生のしあくくん(7)は「ほしい、ほしい」。でも、しんたろうくんは首を縦に振らない。「何か作って交換するのはどう？」と畑中友美先生(32)が提案。しあくくんはみそ汁を作り、しんたろうくんは交換をもちかけることにした。

先生に手を添えられ、ペースト状のみそと乾燥わかめに、真剣な表情でお湯をそそぐ。みそ包丁など、遠ざけられがちな道具を

「何か作って交換するのはどう？」と畑中友美先生(32)が提案。しあくくんはみそ汁を作り、しんたろうくんは交換をもちかけることにした。

先生に手を添えられ、ペースト状のみそと乾燥わかめに、真剣な表情でお湯をそそぐ。みそ包丁など、遠ざけられがちな道具を

「何か作って交換するのはどう？」と畑中友美先生(32)が提案。しあくくんはみそ汁を作り、しんたろうくんは交換をもちかけることにした。

先生に手を添えられ、ペースト状のみそと乾燥わかめに、真剣な表情でお湯をそそぐ。みそ包丁など、遠ざけられがちな道具を

「何か作って交換するのはどう？」と畑中友美先生(32)が提案。しあくくんはみそ汁を作り、しんたろうくんは交換をもちかけることにした。

先生に手を添えられ、ペースト状のみそと乾燥わかめに、真剣な表情でお湯をそそぐ。みそ包丁など、遠ざけられがちな道具を



具を実際に使いながら学ぶだけでなく、自分自身で何かを作り

橋本先生(左)らと一緒に、コーラを作る小5の男の子(東京都港区)

出し、完成させていく。

同じ日、食堂の二つ隣の教室からも「カチャカチャ」と音がした。そこでは5年の男の子(11)が、大好きなコーラ作りの真っ最中。重曹を水に溶かすとは「溶解」、シナモンなどスパイスを煮詰めたシロップをこすことは「ろか」だと伝える橋本高子先生(44)の横で、男の子はビーカーの中のシロップをまぜた。着色していない手作りの微炭

酸コーラは、薄い黄色だった。シナモンのきいた味に、「大人の味だね」と言うのと、男の子は「おとなあじ、おとなあじ」と言っとうなずいた。そこに、5年のちかさん(11)が帰ってきた。学校周辺を散歩中に転んだらしい。少し泣いているちかさんに、橋本先生は「痛かったね、痛かったね。あのね、みんなでコーラ作ったの。ちかちゃんも飲む?」。一口飲んだちかさんは、みけんにしわをよせて舌を出す。ちかさんの涙がひき、みんな思わず笑顔になった。(円山史)